

紀 要 委 員 会

委員長 薄井 明
委員 神田 直樹 御厩美登里
近藤 尚也 志水 朱
井上 貴翔

編 集 後 記

今年も、12月20日の発行日に無事『看護福祉学部紀要』第29号を発行することができました。投稿して下さった先生方には、改めて感謝申し上げます。また、紀要委員の皆様には、投稿者の集約や紀要の配付等でお世話になりました。

今年2022年は、看護学科の工藤禎子先生と佐々木栄子先生が相次いで御逝去され、学部にとって大変悲しい年になってしまいました。お二人ともこれからの看護学科を担っていく先生方ただだけに、その喪失感は計り知れません。工藤先生が昨年『看護福祉学部紀要』第28号に英文の論文を投稿して下さいましたことは、紀要委員長の中には、特に印象深く残っています。改めて、工藤先生と佐々木先生の御冥福をお祈りいたします。

夏に起こった第七波が終息に向かうかに思えたコロナ禍三年目の今年、北海道は“全国に先駆けて”第八波に突入してしまいました。私たち日本国民、道民はこの間何を学んできたのだろうか、政府や道の感染対策（と景気刺激策）は少しでも適正化の方向に進んでいるのだろうかと考えてしまうこともありました。しかし、それでも、「出口が全くみえない」状況というわけではありません。新型コロナウイルス（Covid-19）を現在の「2類感染症」（危険性の高い感染症）から「5類感染症」（既知の感染症）に格下げする議論も起こっています。そろそろ、治療態勢を整備した上で着地点を見据えた「出口戦略」を打ち出すべき時期に入っていると思います。

看護福祉学部は来年2023年に創設30周年を迎えます。『看護福祉学部紀要』も第30号の刊行となります。（なお、私事になりますが、来年度は私にとって医療大における勤務の最終年度となります。）いろいろな意味で節目になる2023年が良い意味で看護福祉学部の「転換点（a turning point）」になることに思いを馳せながら、日々の業務に励んでいる2022年の年の瀬です。（薄井明）